

目 次

- (1) はじめに
(2) どうして教科書に記述されたか?
(3) 教科書記述の変遷をたどる
江戸時代の「身分制度」はいかに表現されたか?
① 「土農工商」が消えた?
② 「低い」から「別に」（存在形態）の変化
③ 「おかれた」から「いました」へ
④ 「不満をそらす」「分断支配」がなくなる
⑤ 被差別民である「えた」身分や「ひにん」身分の人びとについての記述
1 4 4 4 4 2

室町文化に河原者が登場

蘭学と染一揆

・脇分けのこと

・染一揆

- (4) おわりに

28 25 22 22 18 11 10 9 7 5 1

二〇一二年一月に行われた大学入試センターの試験問題です。

江戸時代における身分と村社会について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 入会地や用水の管理など村の運営は、城下町に常駐した武士によって行われた。
② 村役人には、苗字・帶刀を許された者でなければ就任できなかつた。
③ 牛馬の死体処理や皮革業に携わる者が、農業にかかわることはなかつた。
④ 百姓身分のなかには、農業のほか、林業・漁業に従事する者もいた。

(1) はじめに

教科書に部落問題（史）が記述されるようになつて、すでに四〇年が過ぎる。中学校で一九七三年（?）、高校で一九七四年、小学校で一九七五年から使用された教科書には、江戸時代（身分制）、明治維新（解放令）、大正時代（水平社）に順次記述されるようになり、中学校では八〇年代初めに室町文化も取り上げる教科書もあつた。以降今日に至るまで、質、量ともに充実していきつつも、その内容は教科書の改訂にともない、記述にかなりの変化が見られた。二〇一二年度（平成二十四年度）使用の中学校教科書からは、「土農工商」という從来身分制を表す「誰も」が了解する言葉が完全に消えた。実は、部落史記述の変化はこれに象徴されるように、「学び直し」の時期を迎えているのである。小論では、前近代の教科書記述について、その変遷がなぜ、どのように行われたのかを記録し